

脇山校区スポーツ大会参加

11月19日(日)、脇山校区でのスポーツ大会で、東京パラリンピックで話題となった「ボッチャ」を実施することになりました。子どもからお年寄りまでみんなが楽しめる競技で、ルールはとても簡単なので、研修生も2チームに分けてそれぞれのパートで試合を行いました。そして、何とそのうちの1チームが決勝トーナメントに出場し、見事2位の成績をおさめることが出来ました。楽しみながら何事にも真剣に取り組む研修生の姿勢がもたらした結果ということで、会場全体も大いに盛り上がりました。(豊田)



体験農園だより

11月中旬よりソラマメとエンドウマメの植付を行い、秋冬作の植付はすべて終わりました。食害がひどかったダイコンも何とか大きくおいしそうに育ってくれました。一方で、あまり食害が目立たなかったブロッコリーやキャベツは青虫の食害が目立ってきています。あと少しで収穫というところで、区画によっては今のうちに収穫していただき、少しでも楽しんでいただけるようにご案内しております。12月23日(土)には今年最後のイベントである餅つき大会を予定しています。今年もたくさんの方にお越しいただきたいと思います☺(飯川)

脇山ウォーキングのみなさん来所

11月3日(金)の文化の日、地元脇山のイベントでウォーキングの会が開催され、約100名の方が公民館からセンターまでの2キロ程の距離を歩いて訪問しました。センターに着いた一行は、グラウンドの広場でストレッチとスロージョギングの体験をしました。研修生もそれに交じって体験し、軽く汗をかきながら楽しく交流を深めていました。(豊田)

「ホテルオークラ福岡」社員研修

11月14日(火)、センターが農産物を出荷している「ホテルオークラ福岡」の3年目の社員の方4名が参加して研修会が行われました。研修会の内容については、午前中はオイスカの活動紹介から研修生の国の紹介、料理づくりと盛りだくさんの内容で、料理づくりについては3カ国の料理を手際よく作ってもらいました。

午後の部については、サツマイモやサトイモの収穫体験をしていただき、「芋掘りは保育園かな」と言いながら、研修生と一緒に楽しく作業を行いました。最初は硬い表情だった社員の皆さんも、研修後半はだいぶ打ち解けて研修生とも仲良くなり、お互いに有意義な時間を過ごすことが出来ました。(豊田)



12月の予定

- 2日 体験農園みそづくり
- 3日 日本語能力試験
- 5日 アトリエ木下クリスマス会
- 6日 クリスマスマーケット博多駅
- 8日 オイスカ高校来所
- 9日 グローバル青年の翼研修会
- 9日 フクネットパネル展
- 11日 ゼナ忘年会
- 13日 福岡農業高校交流会
- 13日 福岡県議連報告会
- 15日 スズケン労働組合研修
- 19日 早良高校文化体験
- 23日 体験農園もちつき
- 26日 若竹保育園もちつき
- 27日 センター餅つき
- 29日 仕事納め

ご協力ありがとうございます！

【11月の寄付品】(敬称略)

オーガニックパパ、牛島明
五味俊哉、浅野奈々穂、藏内 勇夫
池田功洋、須恵町国際交流協会
シャープ写真会、諸江葉月



農場の研修風景

早いもので今年も残りわずかとなりましたが、皆さんにとって2023年はどのような年だったでしょうか。コロナが落ち着いて様々なイベントが復活し、オイスカでは海外のツアーや交流会が完全にコロナ前に戻り、日常の農業研修以外にもとても慌ただしい日が続きました。そして、今年の夏の猛暑は本当に大変でしたが、今年ほど研修生が川遊びをした年はなかったのではないかなと思うくらいよく川に行きました。全く泳げなかった女性研修生も、夏の終わりにはみんな泳げるようになりました。(泳ぎ方はバラバラですが)今年の研修生は来年の3月に帰国しますが、これから研修の仕上げの段階に入っていきます。彼らは、これからも持ち前の明るさと前向きな気持ちで日本の冬を満喫しながら、楽しい思い出を増やしていく事でしょう。(豊田)

脇山小学校餅つき

11月18日(土)、ちょっと早い「もちつき大会」が脇山小学校で開催されました。昨年はコロナの影響で制限がかかる中での開催でしたが、今回からは制限のない状況の中で、たくさんの協力者のもとで盛大に開催されました。研修生は各学年に入り、「もちつき」から「もちまるめ」までを子ども達と一緒に体験し、楽しく交流を深めることが出来ました。(豊田)



まるごと!西日本

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部

福岡市早良区小笠木 678-1

TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322

E-mail: oisclntc@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)

2023年12月号



@OISCA_NTC
Instagram



facebook

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

第15回収穫感謝祭開催 11月11日、昨日の雨も上がり、15回目となる「収穫感謝祭・秋」を開催しました。今年は相撲協会のコロナ対策も緩和され、高田川部屋力士も参加しての開催となりました。当日は約1800名の参加者で賑わい、広いはずのオイスカ広場が人で一杯となり、お借りしていた早良高校及び脇山小学校の駐車場が足りないくらいとなり、警備の方も大変でした。研修生は初めての体験でしたが、ステージで自己紹介、国のダンスを披露し、また、担当のブースで来場者と楽しく交流出来ました。当日集まった技能実習生40名もお手伝い頂き、十分に楽しめた1日でした。フィナーレとして、恒例の餅撒きでは、関取を含め、研修生、技能実習生がステージに上がり、準備した2千個以上の紅白餅を参加者の皆様にふるまいました。なかなか壮観でした。例年、多くのステージプログラムで賑わい、恒例のイノシシ丸焼きはイノシシ不猟の為、鳥の丸焼きにチャレンジしたところ、大好評！20羽の丸焼きが見事に食べつくされました。ご来賓の方をはじめ、オイスカに来ていただいた皆様、本当にありがとうございました。来年も開催しますので、お楽しみにしててくださいませ。(廣瀬)



研修生のダンス



餅つき



鶏の丸焼き



芋掘り体験



もち投げ

北九州エコライフステージ 2023 11月10日から11日に北九州エコライフステージ 2023 が北九州市役所周辺(小倉)で開催されました。これは西日本最大級の環境イベントとして、市民・NPO・企業・学校・行政などの団体が参加して日頃実践している環境活動等の発表や、新しいライフスタイルを提案するイベントとして開催されています。今年も7つのゾーンに分かれ、70団体あまりが出展をしました。オイスカブースでは新鮮な農産物やインドネシアコーヒー、手作りクッキーやパン、ハンドメイドバックを販売しました。当日は肌寒い天気ではありましたが会員さんをはじめ多くの方にご来場をいただきお買い求めいただきました。ありがとうございました。(満川)



福岡県庁・福岡市役所 農産物販売会 夏野菜の販売会に続き、福岡県庁(11月21日、22日)、福岡市役所(11月29日)で実施させていただきました。それぞれお昼休みの時間に合わせ、大勢の方に購入いただきました。この季節の農産物は、新米、ネギ、大根、かぶ、ブロッコリー、みかん、芋類、葉物野菜等、約20品目を並べ、双方とも殆ど売り切れの大盛況となりました。昨年から提供している、インドネシアのプロジェクトで地元農民が栽培加工している、「幻のコーヒー・ルアックコーヒー」も大人気で完売！多くの方にオイスカの味を知っていただく良い機会となりました。研修生も参加し、多くの方と日本語で会話し、忙しくもあり、楽しい時間となりました。ご購入頂いた皆様、ありがとうございました。(廣瀬)



センターサミット in 四国 11月7日～8日の2日間で第4回目となる「オイスカ研修センター支援サミット」が四国センター及び高松市内にて開催されました。前は西日本研修センターにて開催したサミットでしたが、テーマとなった、研修生OB/OGのサポート及び支援について討議しましたが、今回は、まもなく改正される技能実習制度への今後の対応及び各センターの10ヶ年計画について討議しました。財政的に厳しい中ではありますが、オイスカとして今後の活動の指針を作るべく、中野理事長をはじめ本部役職員、各センター所長、各支部支部長が揃い活発な意見交換を行いました。毎年オイスカ四国支部では、「オイスカ四国の集い」が開催されており、8日には一般公開プログラムとして、高松市内のパールガーデンホテルにて、約300名の会員、関係者の皆様が揃う中、企業内転勤として活躍する、ガディさん(マレーシア)の活動報告と技能を長年受け入れていただいている竹内農場の竹内社長からの発表がありました。人材育成を基本とするオイスカの活動を多くの方に実感していただく機会となりました。(廣瀬)

LP ガスセーフティフェア2023

11月2日から3日にかけて、福岡地区LPガス協会西支部主催のLPガスセーフティフェアのイベントにオイスカブースを出店させていただきました。福岡タワー1Fホールの会場にはたくさんの方がご来場され、オイスカブースにも会員さんはじめ来場いただいた方に新鮮な農産物やインドネシアコーヒー、手作りクッキーやパン、ハンドメイドバックをお買い求めいただきました。ありがとうございました。(満川)



東峰村 100 年の森づくり参加

11月23日(祝)に東峰村岩屋キャンプ場で開催された第23回「宝珠山百年の森づくり記念植樹」に参加いたしました。全体で50名近くの方が参加し、オイスカからは研修生・技能実習生だけでなく、インドネシア子ども親善大使の御一行も参加しました。カワヅザクラやイロハモミジなど5種類の樹木を35本植樹。昨年よりも暖かく、また斜面地だったこともあり、汗をかきながらの植樹となりました。植樹後は毎年お楽しみのBBQ。特製のカレーや地鶏を使った炒め物をおいしくいただきました。研修生からの踊りやインドネシア子ども親善大使御一行の踊りと歌などを披露しました。その後、研修生からのリクエストで浮羽稻荷神社に立ち寄り、研修生たちは珍しく連なる鳥居でたくさん写真を撮りました。とても思い出に残る一日になったのではないかと思います😊



大分県推進協議会会員訪問

11月29日～30日にかけて大分県の会員さんを訪問してワンコインサポータープログラム支援のご依頼をしました。日頃よりご協力をいただいています会員さんに現在企業内転勤で西日本研修センターに勤務をしているミャンマーのティンさんより近況報告をはじめ母国の様子についても少し触れるなど、会員さんよりたくさんの激励をいただきました。今年は研修生9名の在籍ですが2024年度は海外研修生14名の受け入れに向け、準備を進めてまいりますと意気込みを述べました。お忙しい中ご面会をいただきありがとうございました。(満川)



瀬戸様(九重町)



(株)アドバンスト(大分市)



学校法人明日香学園(大分市)



大分銀行本店(大分市)



←保育園での
芋掘り交流

長崎県推進協議会主催交流行事に参加

11月2日(木)、佐世保市に事務局を構えている長崎県推進協議会の主催で、佐世保市の隣に位置する佐々町の「さざなみ保育園」の園児約30名と一緒に、芋掘り交流会に参加しました。場所は佐々町が運営する農園で小高い山の中腹にあり、九十九島などが一望できる景色が素晴らしい所で実施されました。芋掘りは40分ほどかけて行われ、研修生は子どもたちの間に入って、手を使って一緒に芋を掘っていきました。芋掘りの後は近くの広場で国の紹介とダンスを披露し、子ども達からもダンスと歌の披露がありました。短い時間でしたが、子ども達は研修生によく慣れた様子で、楽しそうに交流を深めていました。その後、長崎県推進協議会の山下会長の計らいで、九十九島のクルージングを体験させていただき、16時から同じく佐世保市にある長崎県立大学に赴き、学生約20名が参加して交流会が行われました。交流会の内容については、研修生から国の紹介とダンスの披露が行われ、短い時間でしたが学生さん達は研修生とも世代が近いということで、大変盛り上がった交流会となりました。当日は天気も大変よく、たくさんの方と交流を深める機会をいただき、良い思い出を作ることができました。(豊田)



「地球市民の会(TPA)」ミャンマー一行来所 11月27日(月)佐賀県に本部を置く「地球市民の会(TPA)」のメンバー6名がセンターを訪問しました。「地球市民の会(TPA)」はオイスカと同じ国際NGOで、今年で創立40周年を迎えるそうです。今回のセンター訪問については、TPAがミャンマーでプロジェクトを展開している研修センターの代表を務めているのが、西日本センターの2011年のOB研修生(ワーワーライン)ということで、今回彼女が記念式典への参加と短期研修を目的として来日し、スケジュールの合間をぬって今回センターを訪問していただきました。

彼女の現地での活動は、ミャンマーの山間部に住んでいて、なかなか学校へ通うことが出来ない高校生を対象に、団体が運営する研修センターに滞在してもらい、学校に通いながらそのセンターで農業などについて学んでもらう活動を行っているそうです。その活動に関して主たる指導を行っているのがラインということでした。彼女はいまだに結婚をしていませんが、たくさんの子供と常に接しながら、厳しくも優しいお母さんとして頑張っていました。活動する団体は違いますが、オイスカの精神を持った優秀な人材が、様々な団体、分野で活動していることは、指導した立場の者として大変誇らしく思いました。



右から2番目がラインさん

日本語のようす 大野城市スピーチコンテストに出場

11月5日、大野城市日本語スピーチコンテストが行われました。当日は11名の出場者のうち、研修生は5名で、その他は日本語学校で学ぶネパール人留学生でした。

トウサ(ミャンマー研修生)…センターでの研修、生活をとおして、みんな同じ人間であり、国境を越えて、人と人が結びつくことの大切さを話しました。

トゥリア(インドネシア研修生)…自身の経験をもとに、視野を広げるために、異文化交流の大切さを表情豊かに話しました。

アグス(東ティモール研修生)…人生はお互いをおぎないあい成り立ち、国際交流は愛と平和をとおして、私たちをよい関係に結び付けることができると話しました。

ドゥリシャ(インド研修生)…地球は一つしかないからこそ、自然災害、地球温暖化、戦争からこの美しい地球の子どもたちを守るために団結しなければならないと力強く話しました。

カルマ(チベット研修生)…チベット人としてのアイデンティティを失うことなく、ありのままを受け入れてくれたインドとチベットの関係について話しました。

結果は、最優秀賞をドゥリシャ、優秀賞をトゥリアが受賞しました。5人とも、4分近いスピーチを暗記し、堂々と自分のスピーチを発表することができました。とても、誇らしかったです。そして、12月3日の日本語能力試験受験をもって、教室での日本語クラスは終了しました。残りの研修期間も、身につけた日本語を駆使して、帰国後のアクションプランを念頭に実習に励んでくれることでしょう。研修生、頑張りました。(立石考子)



A クラス



スピーチコンテスト出場者



B クラス



トウサさん



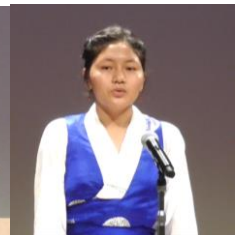
トゥリアさん



アグスさん



ドゥリシャさん



カルマさん



インドネシア子供の森親善大使研修

11月20日から23日にかけて、オイスカ西日本研修センターでは初めてインドネシアからの「子供の森」計画子ども親善大使一行を受け入れました。一行は子ども3名(小中高生1名ずつ)と調整員1名、そして教員1名の計5名で構成されていました。

2013年に開始された子ども親善大使の招へいは、2020年度以降はコロナ禍の影響で中止が続いていましたが、今年度、コロナの収束を受けて、3か国からの子どもたちを招いて再開されることになりました。インドネシア一行の場合、親善プログラムの第一段階は、福岡県周辺で行われましたが、日本における環境保全の取り組みについて理解を深めることができるよう、西日本センターが様々な活動を準備しました。第一日目、一行は北九州市を訪問し、水巻町立吉田小学校の4年生児童との交流会、いのちの旅博物館における人類の進化についての学習、更にはエコタウンにおける風力タービンや自動車リサイクル工場の見学などを行いました。

二日目には佐賀県を訪れ、東唐津小学校や唐津南高校の児童・生徒たちとの交流会に参加しました。また、虹の松原では、日本の子供たちに混ざって松葉かきも体験しましたが、これが今回の訪日に当たって、一行が森林の管理作業に参加した最初の活動となりました。

最終日、一行は東峰村における100年の森づくり植林活動に参加しました。桜と紅葉の苗木を植えた本活動は、彼らの福岡での滞在のよい思い出になったようで、大変嬉しそうでした。

3名の親善大使たちがインドネシアのそれぞれの学校における環境保全の取り組みを日本語で発表し、多くの聴衆を驚かせた本プログラムは、総じて円滑に進められました。一行は研修センターの職員や研修生、オイスカの会員さんたち、その他、福岡滞在中に彼らがお世話になった全ての方々にいただいたおもてなしと導きに対して、大いに感謝していました。本プログラムを通じて彼らが獲得した環境に関する全ての学びは、帰国後、インドネシアの他の「子供の森」計画参加校にきっと共有されることでしょう。(中垣アダ)



センターにて



いのちのたび博物館



唐津市



東峰村